

資料2 平成29年度 兵庫県立有馬高等学校 学校評価(自己評価)

平成29年度重点目標(年度努力事項)

「つかめ、夢の扉」輝け君の未来に！ (1)学びとキャリア教育の充実 (2)心と体の教育の充実・生きる力の育成 (3)魅力ある学校づくり	(キャリア教育の充実・学力の向上・授業力の向上) (豊かな心の育成・規律ある態度の育成・生きる力の育成) (いじめの防止・開かれた学校づくり・学校評価の改善)
--	---

※項目1～25のすべてについて回答してください。  
評価A→4 B→3 C→2 D→1 (マークカードにマークする際の基準)

重点目標に関わる本年度努力事項と具体的取組(その1)

重点目標1: 学びとキャリア教育の充実		主担当	目標及び計画	これまでの成果	評価A	評価B	評価C	評価D	項目No.	評価点(5段階換算)	
(年度努力事項)											
キャリア教育の充実		総合学科部	目標	キャリアプランニング能力、人間関係形成・社会形成能力の向上を図るとともに、将来への展望を明確にすることで、学習意欲の向上につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各年次の生徒に「生き方を考える」授業を年間を通して展開した。</li> <li>「産業社会と人間」の授業では、上級学校訪問、プロフェッショナルin有馬等で、卒業後の進路や働くことについて深く考える機会となった。またグループワークや発表を通してコミュニケーション能力を向上させることができた。</li> <li>「WILL総合的な学習の時間」では夏季課題として「職業人インタビュー」を実施した。事前学習として社会人講話やマナー学習、事後指導として発表の場を設け振り返りを行い、多くの職業人の方から自己の将来の進路選択を含め生き方について考察する機会を得た。また、春に「新聞読み解き講座」を実施し、秋の小論文指導につなげ、社会により関心を向かせる機会を増やした。</li> <li>「課題研究」では前年度に全体編・講座編の2回のガイダンスを実施することでスムーズに調査・研究をスタートさせ、課題の解決を図る能力を身に付けるよう実践した。</li> </ul>				1	4.1 (4.1)	
			計画	つきたい力(目標)と成果を明らかにするよう、授業計画の見直しながら、「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」、「課題研究」を授業計画に基づいて実施する。							
(目指す姿) 特色学科の利点を生かした教育活動を展開することで、生徒の職業的(進路)発達を促し、自己実現、進路実現を図る。	(現状) 「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」、「課題研究」、「実習」等を中心に、生徒に将来の生き方を探究させ、生きる力を身につけさせる活動を計画的に実施している。	農業部	目標	(1)進路を見据え、人と自然科の特色と専門性を生かした専攻班別の課題研究を実施することで、生徒の専門性、職業的(進路)発達を促す。 (2)阪神農林振興事務所と連携した農業者特別授業を実施して生徒の専門性を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市農業インターンシップ(専業農家)の参加(2年生2名、3年生1名)</li> <li>農業者特別授業を3年生で6月22日に実施(有機農業を実践されている卒業生 藤本節代様)、2年生で9月26日にバスセミナーで加西フラワーセンターと次世代型農業兵庫ネクストファーム(トマト工場)の見学を行った。次回は1月に1年生対象の講座を予定している。生徒のキャリア教育として意義のある授業が実践できている。</li> <li>全国林野庁補助事業を活用し、2年生で10月24日に大阪教育大学永富教授をお招きし木育教育を実施した。</li> </ul>				2	4.3 (4.3)	4.1
			計画	(1)3年生における専攻班別(野菜・草花・環境)課題研究の実施 (2)農業者特別授業年間3回予定							
		進路指導部	目標	低学年の間に将来の目標により近づける進路を考えさせ、3年生でその進路希望が実現できるようにサポートを充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生:3月の大学模擬授業等を通して進路目標を具体化できるように指導していきたい。</li> <li>2年生:7月の分野別ガイダンスでは、それぞれの進路へ向けての理解と意識を深めた。12月に大学・専門学校・就職に分け講演を予定、3年生0学期に向けて意欲を高めていきたい。</li> <li>3年生:7月に大学別入試説明会、難関大学講座を行い、夏休みを高いモチベーションで過ごせるように努めた。10月・11月に職員による推薦入試サポートに加えて、外部講師による看護医療面接講座、難関大学の小論文対策講座を実施し、例年にない良い結果が得られた。</li> </ul>				3	3.8 (3.7)	
			計画	(1)1年生 進路LHR(7月)進路講演会(12月)大学模擬授業(3月)など (2)2年生 分野別ガイダンス(7月)学校別ガイダンス(3月)進路講演会(12月) など (3)3年生 大学別入試説明会、国公立・難関私大対策講座(7月) 進学・就職等講座 推薦入試サポート 看護医療系集中講座 など							
(年度努力事項)											
学力の向上		学力向上委員会	目標	生活実態調査や、スタディーサポート、進研模試の結果などから生徒の学習時間や学力の実態を把握しその 向上に努める。1年生において「有英英語検定」を実施し、学習に対する意欲の向上や学習習慣の確立、家庭学習時間の増加を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>進研模試やスタディーサポートについて分析結果を職員会議で報告し、課題や成果を全職員で共有することに努めた。7月(第1回)と11月(第2回)に有英英語検定を実施した。また、希望者を対象に6月に第1回の漢字検定を実施した。</li> </ul>				4	3.6 (3.7)	
			計画	(1)年2回生活実態調査、学習リサーチを行う。 (2)学年や教科と連携して、「有英英語検定」を年4回、漢字検定を年2回実施する。							
(目指す姿) 生徒の実態を踏まえて個に応じる教育を充実させ、授業改善を実施することで生徒の学力の向上に努め、生徒一人一人の夢を実現させる。	(現状) 主体的に学ぶ意欲の涵養と家庭学習習慣の確立による学力のさらなる向上のために、効果的な面接や「有英英語検定」の導入、少人数指導、小テスト、補充的・発展的補習等の取組を推進し、個に応じた指導の充実を図っている。	1学年	目標	授業の予習・復習や小テストを確実にこなす中で家庭学習の習慣を定着させる。学習への意欲を高め、基礎学力を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>初期学習で学んだ学習方法が定着するよう、朝の学習、早朝の英語補習、小テスト、週末課題等を積極的に取り入れた。模擬試験やスタディーサポートでは、事前・事後の指導を行い、特に振り返りに力を入れ、苦手な分野や今後の具体的な目標を意識させた。</li> <li>なぜ学習するのかという部分に着目し、やらされるのではなく、自ら学習に取り組む姿勢を意識させることに努めた。</li> </ul>				5	3.9	3.9
			計画	長期休業補習(7・8・12・3月) 早朝補習 教科面談(12月) 平常・長期休業課題 小テスト 科目選択説明会 など							
		2学年	目標	将来の進路を意識させる事で学習意欲を高め、家庭学習時間の増加と学力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>平常の課題や小テストに加えて、補習や朝学習を継続して行き、基礎学力の向上に努めた。</li> <li>分野別ガイダンスやオープンキャンパスへの参加を行い進路意識の向上を図った。</li> <li>模擬試験やスタディーサポートでは、事前・事後の指導を行い、苦手な分野や今後の具体的な目標を意識させた。</li> <li>10月には保護者向けの進路講演会を行い、進路選択の参考としていただいた。</li> </ul>				6	3.7 (3.8)	
			計画	平常補習(早朝・放課後) 長期休業補習(7・8・12・3月) 教科面談(12月) 平常・長期休業課題 小テスト 進路検討会(6月) など							
		3学年	目標	進路実現に必要な学力を定着させる。生徒に高い進路目標を持たせ、最後まで努力することの大切さを理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりの第一志望を具体化し、その達成を目指して各種講座や補習(早朝・放課後)を計画的に実施した。</li> <li>授業や補習では、基礎学力の定着と発展学習の取り組みという二本柱で実施し、生徒個人に応じた成績の伸長が図れるよう工夫した。</li> <li>生徒が互いの目標を尊重し合い、最後まで支え合える雰囲気作りにも努めた。</li> </ul>				7	4.3 (4.0)	
			計画	平常補習(早朝・放課後) 長期休業補習(7・8・12月) 一般入試対策補習(2・3月) 入試検討会(7・12・1月) など							
(年度努力事項)											
授業力の向上		学力向上委員会	目標	公開授業週間において、研究授業を中心に教員間で互いの授業を見学し、指導力の向上を図る。また研究授業、授業研究教科会において指導方法の共有や生徒の学力向上、学ぶ意欲の育成について検討する。また授業アンケートを通して、教員の資質・能力の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月の公開授業週間では教科ごとに研究授業を行い、授業研究教科会を実施して意見交換をおこなった。また11月には教科の枠を越えて自分の教科以外の研究授業を見学し、グループごとに授業研究会を行った。</li> <li>5月は本校保護者を対象に、また10月にはオープンハイスクールと絡め中学生やその保護者等を対象に授業公開を行い、本校の授業の様子を見学していただいた。</li> <li>7月に今年度に開講している全講座を対象とした生徒による授業アンケートを行い、以後の授業の展開や工夫につながるようになった。12月には各授業担当者が自ら講座を選び、アンケートを行い授業を振り返る機会とした。</li> </ul>				8	3.9 (3.8)	
			計画	(1)6月と11月に公開授業週間を設け、教員間で互いの授業を見学する。またその期間中に各教科で研究授業を行う。 (2)公開授業週間の最終日に授業研究教科会を行い、研究授業の内容を含めテーマに応じた意見交換を行う。 (3)7月は全講座対象に、12月は講座を選択して授業アンケートを行う。							
(目指す姿) 教職員の資質・能力を向上させ、教育課程の編成と運用に創意工夫をすすめることで、生徒に確かな学力を確実に定着させる授業づくりを協働的に推進する。	(現状) 年2回、生徒による授業アンケートを実施し、客観的な授業分析を行うことで授業改善に努めている。また、教科会の充実や教育課程の見直しによる授業改善を行っている。	教育課程委員会	目標	国公立大学・難関私立大学進学から専門学校進学、就職まで多岐にわたる進路選択に対応できる教育課程を編成し運用していくとともに、配置された科目の内容についてもより充実を図っていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度入学生の教育課程について、人と自然科と総合学科それぞれの特色に基づき教育課程を検討した。より高い進路目標の実現や魅力のある科目の選択を可能にした教育課程を編成して科目選択を行っている。</li> <li>人と自然科・総合学科ともに、教育課程については、現行の配置されている科目の内容の充実を図り、大きな変更はをおこなわなかったが、生徒の選択状況も考慮に入れ、一部の演習科目を学校設定科目に変更し、柔軟な選択が可能になるようにした。</li> <li>平成30年度開校科目については、現状の生徒・職員の定数も勘案しながら、できる限り多くの講座が開講できるよう努めた。</li> </ul>				9	4.0 (3.9)	3.9
			計画	(1)平成30年度入学生の教育課程について、学科の特色に基づいた思考力・判断力の伸長を図り、基礎基本の定着や、高い進路目標の実現を目指した教育課程を編成する。 (2)教科会を定期的に行い、カリキュラムの内容や学年ごとの授業の到達度などを教科内で確認し、適切な指導につなげていく。 (3)教育課程に配置された科目について、それぞれの科目の目標を教科内で共有し、より内容を充実させていく。							

上段H29  
下段H28

重点目標に関わる本年度努力事項と具体的取組(その2)

重点目標2: 心と体の教育の充実・生きる力の育成		主担当	目標及び計画	これまでの成果	評価A	評価B	評価C	評価D	項目No.	評価点(5段階)		
<p>(年度努力事項)</p> <p><b>豊かな心の育成</b></p>	<p>具体的な取組</p>	生徒指導部	<p>目標</p> <p>生徒会活動を活性化し、生徒の自主・自立のもとに諸行事の企画運営ができる。1年次は全員部活動に入部し校内の活性化を目指す。</p>	<p>・1学年の生徒の部活動加入は、定着した。当たり前のことであるが、入学直後に入部先を決定するため、部活動に適應できない場合もあり、転部する生徒も少なからずいる。</p> <p>・委員会活動については、各委員会で行動目標を策定し取り組むことができています。</p>	<p>生徒会活動や部活動が積極的に行われ、生徒一人一人がその活動を通して成長し他者を思いやる心の育成ができています。</p>	<p>生徒会活動や部活動が行われ、生徒一人一人がその活動を通して成長している。</p>	<p>生徒会活動や部活動が積極的に行われている。</p>	<p>生徒会活動や部活動が積極的に行われていない。</p>	10	3.7 (3.8)		
			<p>計画</p> <p>(1)各委員会が校内での諸問題を認識し、それらを改善できるよう委員会活動を自主的に進めるよう促す。 (2)生徒会行事を活性化させる。 (3)2学年になっても引き続き部活動に参加するよう促す。</p>									
		<p>(目指す姿)</p> <p>多文化教育や個性と人権を尊重する多様で柔軟な教育を推進する。国際的な視野で、命と人権を大切にし、人としてともに生きる心を育てる。</p>	<p>(現状)</p> <p>人権教育や国際理解教育、体験活動、主体的な生徒活動等を通じて、確かな国際性や豊かな心を育成する教育活動を展開している。</p>	総務・広報部	<p>目標</p> <p>各学年別の人権教育目標を柱として人権LHRや人権講演会を実施し、生徒支援の資質向上を図る。</p>	<p>・第1回人権HRを7月に実施した。主題:1年「高校生としての視点から人権問題を考える(権利の熱気球)」2年「アサーティブネスに考え、行動するわたしになる」3年「就職の公正な採用選考について、何が大切なのか考える」方法:学年毎に職員事前研修を行い、チームティーミングにより実施。 ・10月に全校生を対象に人権講演会を開催。講師:清水展人氏。テーマ:「自分らしく生きる～性別違和を乗り越えて」LGBTIについて理解を深めるよい機会となった。</p>	<p>職員の事前研修が計画的に行われ、生徒の到達目標に応じたLHRが実施できた。</p>	<p>職員の事前研修または、LHRの内容のどちらかに改善の余地がある。</p>	<p>職員の事前研修は不十分で、LHRの実施内容も改善の余地がある。</p>	<p>職員の事前研修は実施されていない。LHRの運営も、十分な体制がとれていない。</p>	11	4.2 (4.1)
					<p>計画</p> <p>(1)年間3回の人権LHRを実施する。 (2)人権LHR事前打合せとして研修会を実施し、教師の人権教育の技術向上を図る。</p>							
<p>(目指す姿)</p> <p>社会的あらゆる場面において必要となる規律ある態度や意識を学校活動において育成し、人間的なふれあいに基いた教育活動を推進することで、社会性や自主性・自立性の育成に努める。</p>	<p>(現状)</p> <p>生徒指導方針に基づき、生徒の服装・頭髪・校門指導等についても、全教職員による共通理解の下、統一した生徒指導を実践している。</p>	総務・広報部	<p>目標</p> <p>国際化社会、多文化共生社会に生きる豊かな人間性の涵養を目指す。国際交流事業を通して、全校生徒の他文化理解を深める。</p>	<p>・7月29日から8月6日まで、マレーシア短期研修を生徒6名の参加で実施した。事前・事後研修、報告会も計画通り行い、参加者にとって非常に充実した研修となった。また、11月9日から11月15日には、マレーシアからの訪問団を受け入れ、学校全体で交流することができた。 ・短期研修の内容は全校集会以、姉妹校との交流の様子は秋季オープンハイスクールで中学生や保護者に報告し、異文化理解や本校の国際交流への理解を深めることにつなげた。良い反応があり、来年度のオーストラリア研修への参加希望者の増加が期待できる雰囲気を作ることができた。</p>	<p>研修参加者を含む全校生徒の異文化理解が深まった。</p>	<p>研修参加者だけでなく、一般生徒の中にも異文化理解がほぼ深まった。</p>	<p>研修参加者の異文化理解は深まったが、一般生徒の異文化理解があまり深まらなかった。</p>	<p>全校生徒の中で、異文化理解があまり深まっていない。</p>	12	3.9 (3.8)		
			<p>計画</p> <p>(1)事前・事後研修会の実施 (2)マレーシア短期研修生の派遣及び姉妹校(マレーシア)訪問団の受け入れ (3)報告会の実施</p>									
<p>(目指す姿)</p> <p>社会的あらゆる場面において必要となる規律ある態度や意識を学校活動において育成し、人間的なふれあいに基いた教育活動を推進することで、社会性や自主性・自立性の育成に努める。</p>	<p>(現状)</p> <p>生徒指導方針に基づき、生徒の服装・頭髪・校門指導等についても、全教職員による共通理解の下、統一した生徒指導を実践している。</p>	保健相談部	<p>目標</p> <p>個人面談やキャンパスカウンセラーを活用し、生徒の内面理解に基づく指導を推進する。教員対象のカウンセリングマインド研修会を実施し、生徒支援の資質向上を図る。</p>	<p>・生徒の内面理解と生徒支援のための資質の向上を推進中である。カウンセラー来校日がこれまでの実績を踏まえ、県に申請し1回増の26回となった。 ・5月と10月にカウンセリングマインド職員研修会を開催した。事例検討を行い、職員の面談力を高める内容を設定し、生徒理解を深める研修会は有効であったと思われる。 ・生徒や職員から受ける相談について多角的に対応できる体制に努めている。 ・各学年主任・生徒指導部長他との情報の共有を行い、組織的な対応につなげている。</p>	<p>様々な相談ニーズに対応できる体制があり、円滑に運営できている。職員研修会が計画通り実施されている。</p>	<p>相談体制は整備されているが、十分活用されていない。2度の研修会が行われているが、改善の余地がある。</p>	<p>相談体制が十分でなく、ニーズに応えられていない。2度の研修会が完全には実施できていない。</p>	<p>体制が不備で、相談に応じられない。研修会が実施できていない。</p>	13	4.2 (4.2)		
			<p>計画</p> <p>(1)年間25回のキャンパスカウンセリング実施する (2)年間2回の職員研修会を開催する (3)各学年主任・生徒指導部長・保健相談部との生徒情報交換会を活用し、個々の事例について早期に対応する。</p>									
<p>(年度努力事項)</p> <p><b>規律ある態度の育成</b></p>	<p>具体的な取組</p>	教務部	<p>目標</p> <p>生徒の自主性と教員のはたらきかけの両面から落ち着いた雰囲気を作り、生徒の学習意欲の向上に共通理解を持ってあたる。また学習スケジュールを中心とした自己管理ができる生徒を育成する。</p>	<p>・着任者オリエンテーションや4月の職員会議での教務上の確認事項を含め、学年や教科担当の先生方に、学習環境や授業規律を意識した上での学習指導を行っていただいている。また新しい支援システムの導入もあり、より慎重に成績処理・出席管理をおこなう意識が高まった。 ・有高手帳を全校生徒が持ち、学習計画や提出物の確認などを各自のスケジュール管理をおこなっている。自己を管理する態度や意識が定着している。</p>	<p>授業規律を守り、落ち着いた雰囲気の中で、規律ある学習習慣や自己管理できる姿勢を身につけることができた。</p>	<p>授業規律を守り、落ち着いた雰囲気の中で、規律ある学習習慣や自己管理できる姿勢を身につけることがあり程度できた。</p>	<p>授業規律を守り、落ち着いた雰囲気の中で、規律ある学習習慣や自己管理できる姿勢を身につけることがあまりできなかった。</p>	<p>授業規律を守り、落ち着いた雰囲気の中で、規律ある学習習慣や自己管理できる姿勢を身につけることができなかった。</p>	14	4.2 (4.1)		
			<p>計画</p> <p>(1)学習環境を整え、授業規律等の目標を合わせて指導する。 (2)「有高手帳」を活用し、学習計画や課題内容、提出物の期日確認など、自己管理ができるように働きかける。</p>									
<p>(目指す姿)</p> <p>社会的あらゆる場面において必要となる規律ある態度や意識を学校活動において育成し、人間的なふれあいに基いた教育活動を推進することで、社会性や自主性・自立性の育成に努める。</p>	<p>(現状)</p> <p>生徒指導方針に基づき、生徒の服装・頭髪・校門指導等についても、全教職員による共通理解の下、統一した生徒指導を実践している。</p>	生徒指導部 学年	<p>目標</p> <p>(1)生徒一人ひとりが基本的な生活習慣を確立することを目指す。具体的には、遅刻者をゼロにするための指導を行う。 (2)校則にのっとった学校生活を送る態度を身につけさせる。 (3)各種の学校行事に意欲的に参加させ、人間的なふれあいのもとで社会性の育成と育む。</p>	<p>・25分登校については、遅れそうになる生徒が駆け足で校門を通過するなど、遅れることに対する抵抗感が生徒個々に見られるようになってきた。遅刻者の数は、学年ごとに多様な対策をとられるなどの協力が得られた結果、前年度同様減少傾向を保つことができていくがゼロにはならない。 ・行事に臨む姿勢もその場に合わせた態度をとることができおり概ね良好である。例えばそれぞれの状況に合わせた雰囲気を作ることができ、全校集会においても生徒会役員の指示を聞きながら臨む雰囲気もできている。 ・落ち着いた学校生活を送っており、校則も守ることができている。服装等においても大きく乱れた生徒はほとんど見られない。 ・考査期間前後に地域の公共施設や大型商業施設を巡回し生徒の情報を収集し、学校近隣地域における生徒の施設の利用態度等の苦情は減少してきた。</p>	<p>生徒指導部と学年が協働してすべての生徒が、8時25分までに正門を通過することを現実させる。生徒指導のガイドラインや指導項目について十分に周知することができ、それをもとに生徒個々に指導できる環境を作ることができている。</p>	<p>生徒指導部と学年が協働してすべての生徒が、8時30分にHR教室に入ることを現実させる。生徒指導のガイドラインや指導項目について十分に周知することができ、それをもとに生徒個々に指導できる環境がある。全校集会などで生徒会役員や職員の指示に従い進捗などを行い、進行できる。</p>	<p>生徒指導部と学年が協働してすべての生徒が、8時30分にHR教室に入るための努力がなされない。生徒指導のガイドラインや指導項目について周知することが不十分で生徒への指導が十分できていない。</p>	<p>生徒指導部と学年が協働してすべての生徒が、8時30分にHR教室に入るための努力がなされない。全校集会などで生徒会役員や職員の指示に従い進捗などを行い、進行できる。</p>	15	3.6 (3.8)		
			<p>計画</p> <p>(1)年度当初に生徒指導ガイドラインを全教職員に説明し、服装指導等の指導方針の共通理解を図る。 (2)制服の移行期間等その都度点検項目や注意項目をわかりやすく周知する。 (3)前日の遅刻状況を学年ホワイトボードに記入して状況を把握しやすいようにする。 (4)学年や地域との連携を深め個々の問題に対して早期に指導に当たる。</p>									
<p>(年度努力事項)</p> <p><b>いじめの防止</b></p>	<p>具体的な取組</p>	いじめ対策委員会	<p>目標</p> <p>未来を担う人としての自覚を持ち、豊かな創造性と深い人間愛の精神を身につけ、自らが主体的に判断し行動する心豊かでたくましい人間育成をめざす。</p>	<p>・6月・11月に2回、記名式で「いじめに関するアンケート」を実施した。全学年において5件のいじめを認知した。10月中には4件が解消したが、残りの1件は解消に向けて取り組み中である。 ・9月には「いじめ基本方針」見直しを行い、特にSNSに関するいじめ対応を強化した。 ・職員に対する「カウンセリング・マインド」の研修会を保健部との連携で実施し、いじめの早期発見の手法やいじめの対応に係わる教職員の資質向上の機会となった</p>	<p>いじめ防止に対して、生徒自ら問題解決するために必要な思考力・判断力・表現力を高め、主体的に判断し行動できる態度を養うことができた。</p>	<p>いじめ防止に対して、生徒自ら問題解決するために必要な思考力・判断力・表現力を高め、主体的に判断し行動できる態度を養うことができた。</p>	<p>いじめ防止に対して、生徒自ら問題解決するために必要な思考力・判断力・表現力を高め、主体的に判断し行動できる態度を養うことができなかった。</p>	<p>いじめ防止に対して、生徒自ら問題解決するために必要な思考力・判断力・表現力を高め、主体的に判断し行動できる態度を養うことができなかった。</p>	16	3.9 3.9		
			<p>計画</p> <p>いじめ防止の観点から、学校教育活動全体を通じて、いじめ防止に資する多様な取り組みを体系的・計画的に行う。いじめの早期発見の在り方、いじめ対応に係わる教職員の資質能力の向上を図るため校内研修を実施する。 ①いじめ対応チーム会議の実施 ②いじめ実態アンケートの実施(6月・12月) ③QUの実施(6月) ④カウンセリングマインド研修会の実施 ⑤生徒・保護者に対する、いじめ目基本方針の周知徹底 ⑥いじめ防止基本方針の見直し</p>									
<p>(年度努力事項)</p> <p><b>生きる力の育成</b></p>	<p>具体的な取組</p>	総合学科部	<p>目標</p> <p>習得した知識や技能を活用して自ら課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などを育むとともに主体的に学習に取り組む態度を養う。そのために、言語活動の充実、見直しや振り返り、人間としての在り方生き方を考える授業を展開する。</p>	<p>・「産業社会と人間」「WILL総合的な学習の時間」における、上級学校訪問、プロフェッショナル有馬、職業人インタビューといったプログラムを実施し、主体的に自らの将来を考え学習に向かう機会とした。 ・1年次生において「コミュニケーショントレーニング」を実施し、意見の異なる相手に自分の考えを理解してもらい、相手の話をよく聞き話を発展させていく力を養った。 ・2年次生において「言語力ドリル」を導入し、論理的に情報を読み取り、考える時間を設けた。 ・プロフェッショナル有馬、職業人インタビューといったプログラムにおいてインタビュー活動を実践し、生徒は主体的に取り組むことができた。 ・上級学校訪問発表会、1分間スピーチ、2分間スピーチ、職業人インタビュー発表会、課題研究発表会を実施し生徒が人前で伝えたいことをわかりやすく伝える力を身につける機会となった。</p>	<p>生徒自ら課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力や主体的に学習に取り組む態度を養う授業を実施することができた。</p>	<p>生徒自ら課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力や主体的に学習に取り組む態度を養う授業を実施することができなかった。</p>	<p>生徒自ら課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力や主体的に学習に取り組む態度を養う授業を実施することができなかった。</p>	<p>生徒自ら課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力や主体的に学習に取り組む態度を養う授業を実施することができなかった。</p>	17	4.2 (3.8)		
			<p>計画</p> <p>(1)自らのキャリアデザインを考えることを軸とする授業、「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」の実施 (2)論理的思考力を鍛えるトレーニングの実施 (3)コミュニケーショントレーニングの実践 (4)インタビュー活動の実践 (5)各種発表会の実施</p>									
<p>(目指す姿)</p> <p>特色学科の利点を生かした教育活動を推進することで、夢や志を抱き、自らの豊かな未来を切り開く子どもたちの「生きる力」を育む充実した教育活動を展開する。</p>	<p>(現状)</p> <p>学科の特色を生かした、人間的なふれあいや自然との関わりを数多く経験することで、生徒たちは社会性や自主性・自立性を身につけている。</p>	農業部	<p>目標</p> <p>人と自然科では体験学習を中心に主体的に活動できる生徒の育成を図る。</p>	<p>・農業部では、各セミナーに参加することにより、学校では経験できない体験活動に取り組む事ができた。 ・8年前から取り組んでいるありまふじ公園公開セミナーでは、生徒の企画した内容を12月12日に実践し、生徒の自主的な活動が実践できた。 ・1年生の人と自然の博物館連携セミナーで専門的な環境教育を学び、2年生で屋久島体験プログラムの実施、現地の高校と交流し、現地で学んだことを研究発表するなど、3年生の課題研究に応用してアクティブ・ラーニングの実践ができています。</p>	<p>各セミナーの出席率が高く、生徒が主体的にさまざまな体験活動に取り組むことができた。</p>	<p>各セミナーの出席率が良く、生徒がおおむね主体的にさまざまな体験活動に取り組むことができた。</p>	<p>各セミナーの出席率が低く、生徒の取り組みが不十分であった。</p>	<p>各セミナーの出席が多、授業が成立していない。</p>	18	4.4 (4.3)		
			<p>計画</p> <p>(1)人と自然の博物館連携セミナー(人と自然科1年生)年間8回 (2)ありまふじ公園公開セミナー(人と自然科3年生)年間25回 (3)三田警察署前花壇緑化運動 (4)三田駅前花壇計画 (5)三田駅前花苗無料配布</p>									
<p>(目指す姿)</p> <p>特色学科の利点を生かした教育活動を推進することで、夢や志を抱き、自らの豊かな未来を切り開く子どもたちの「生きる力」を育む充実した教育活動を展開する。</p>	<p>(現状)</p> <p>学科の特色を生かした、人間的なふれあいや自然との関わりを数多く経験することで、生徒たちは社会性や自主性・自立性を身につけている。</p>	進路指導部	<p>目標</p> <p>就職・進学を問わず、インターンシップ参加率をあげ、進路を考えるよい機会とする。</p>	<p>・2年生が3年生の有高インターンシップ報告会に参加(4月14日実施) ・県庁インターンシップ(7月・8月)に1名参加 ・有高インターンシップ講座(10月6日、11月1日、12月12日実施、1月実施予定) ・有高インターンシップ実施(1月、2月)</p>	<p>事前指導の中で生徒が十分準備をして臨んだ。体験を通して学べたことを報告会で発表し、それが進路実現に向けての指針となった。</p>	<p>事前指導が行われたが、生徒が準備不足ではあった。体験を通して学べたことを報告会でもその姿勢が見れた。</p>	<p>事前指導が行われたが、不十分で体験もあまり充実しなかった。</p>	<p>事前・事後指導が行われず、体験も充実したものにならなかった。</p>	19	4.0 (4.0)		
			<p>計画</p> <p>(1)2年生が3年生の有高インターンシップ報告会に参加する。 (2)県庁インターンシップ (3)有高インターンシップ講座(10・11・12・1月) (4)有高インターンシップ実施(1月～3月)</p>									

重点目標に関わる本年度努力事項と具体的取組(その3)

重点目標3: 魅力ある学校づくり		主担当	目標及び計画	これまでの成果	評価A	評価B	評価C	評価D	項目No.	評価点(5段階)	
(年度努力事項)		総務・広報部	目標	オープンハイスクールや公開授業、学校行事など、学校を公開する場を活性化させ、積極的に外部の意見を取り入れる。その結果として、本校総合学科志願者を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月の育友会総会に合わせて、授業公開と保護者懇談会を実施した。多くの保護者に参加していただき、懇談会においては、情報の提供や保護者との活発な意見交換ができた。</li> <li>夏季、秋季のオープンハイスクールにおいて、昨年度よりも約100名増の1300名を超える参加を得た。秋季オープンハイスクールの当日に合わせて開催した公開授業にも中学生、中学生保護者約130数名に参加いただき、好評を得た。公開授業には、在校生保護者や学校評議委員にも参加いただいた。</li> <li>冬季学校説明会について、本年度より事前申込を不要とすることにより、より多くの方々に気軽に参加いただけるよう配慮した。</li> </ul>	オープンハイスクールや公開授業、学校行事など、学校を公開する場に前年度より多くの人が参加し、有馬の魅力をアピールするとともに、積極的に意見を取り入れることができた。	オープンハイスクールや公開授業、学校行事など、学校を公開する場に前年度より多くの人が参加し、有馬の魅力をアピールすることができた。	オープンハイスクールや公開授業、学校行事など、学校を公開する場への参加者が、前年度より少なかった。	20	4.2 (4.2)	4.0
開かれた学校づくり			具体的取組	計画							
(目指す姿) 有馬高校の特色、魅力ある取組を積極的に提供する中で、学校としての説明責任を果たし、地域に信頼される学校づくりを推進する。また、家庭や地域との連携を深め、開かれた学校づくりを推進していく。	(現状) ホームページの刷新やブログの積極的な発信等を通じた広報活動の充実を図っている。今後も、外部の方々の意見を活かしながら、一層魅力ある学校づくりに努める。	HP・情報委員会	目標	学校ホームページで、活発な情報発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃から多くの教職員の協力を得て、学校情報の公開に努めてきた。概ね、ブログを活用した活発な情報発信ができたと考えている。特にオリエンテーション合宿、マレーシア短期研修、修学旅行などの宿泊を伴う行事について、随時速報を発信し、リアルタイムでの情報発信に努めた。</li> <li>昨年度からの課題であった部活動報告の未発信については、秋季オープンハイスクールに向けて、すべての部活動について、活動内容等をブログで発信することができた。</li> </ul>	ユーザー登録をした教師の8割以上がブログでの情報発信を行った。	ユーザー登録をした教師の5割以上がブログでの情報発信を行った。	ブログでの情報発信を行った教師が、ユーザー登録をした数の5割以下であった。	21	3.9 (3.8)	
学校評価の改善			具体的取組	計画							(1)HP担当が、昨年度刷新した学校ホームページの維持管理に努める。 (2)HP情報委員を中心に、部活動顧問、学年・部担当者がブログでの情報発信の方法について高い意識をもち、行事等の情報発信に努める。
(目指す姿) 学校評価を教職員、外部とのコミュニケーションツールとして活用し、活力のある学校づくりを推進する。校務の適切なスクラップアンドビルドを推進し、学校改善・改革に努める。	(現状) 学校評価における改善点を重点目標に盛り込み、全職員が目標達成のためのビジョンを共有し、課題と改善策を考える意識をさらに高めることが必要である。	学校評価委員会	目標	(1)学校が今年度取り組むべき課題を明確にし、重点目標を達成するために、主担当が中心となって学校全体で組織的に取組を推進する。成果と課題を評価し、改善することで、教育活動、学校運営の向上を図る。 (2)有識者、地域代表者等から広く意見を求め、学校改善および活力にあふれた魅力ある学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内学校評価委員会を予定通り開催し(5月・12月)、本年度の学校評価について検討した。</li> <li>職員会議において、全職員に「学校評価」の趣旨および本年度の重点目標を説明し、学校評価を外部とのコミュニケーションツールとして活用して教育活動、学校運営の改善を全職員で進めていくことの大切さを訴えた。</li> <li>「目標」と「計画」について、必要かつ可能な範囲で数値目標を導入することで目標の達成状況を明確にして、評価しやすいようにした。</li> <li>7月に本年度の第1回学校関係者評価委員会を開催し、学校関係者評価委員の方々に本校の重点目標や取組計画等について説明することができた。本年度は本校の取組をより深く理解していただくために、各部・学年の取組の説明に加えて、有馬高校の学校紹介をパワーポイントを使ってプレゼンテーションした。</li> <li>本年度も学校評価の「目標」と「計画」を分けて記載し、全体のレイアウトを工夫することで、より見やすく評価しやすいように改善を加えた。</li> </ul>	学校評価が教職員間、外部とのコミュニケーションツールとしての役割を概ね果たし、教育活動、学校運営の改善に活かされている。	学校評価がコミュニケーションツールとしての役割を概ね果たし、教育活動、学校運営の改善にあまり役立っていない。	学校評価がコミュニケーションツールとしての役割や教育活動、学校運営の改善に活かされていない。	22	3.7 (3.7)	3.7
			具体的取組	計画							